文藝が文明の精華、國民文化の具體的表現てある事は、今更云ふまてもない。歐米の文明國にあつては、文藝を以て文明的事業の第一位に置き、國民の文藝に對する態度若しくはそが文藝上の發展如何によりて、其國民が品性の高下を論ずる最高の準據として居る。文藝は實に文明の精華てあつて、同時に國民品性の根柢てある。隨つて世界の文藝を研究し、その根柢の生命に觸れる事は、世界文明の根柢を究めることて、國民の品性を高め、國運の發展を計る上に最も偉大なる効果を來すべきは論を俟たぬ。我國が最近數十年間の急速なる發展によつて、今や世界の第一等國に列するを得たのは、吾等國民の共に大に誇とする所てあ

る。然も顧みて歐米人の認めて以て文明の精華とし國民品性の根柢となす文藝に對するわが國民の態度、趣味、知識等を考ふる時は、尙末だ大に歎焉たるべきものがある。天下有眼の士夙に此の點に留意し、痛刻な絶叫を以て我國民の自覺を促しつゝあるのも既に久しく、最近兩三年間に於て、文藝と社會との交渉は漸く著しくなつて來たが、而かも猶文藝それ自らの進歩と、社會一般の趣味とは、兎角相隔離せんとするの傾あるを免れぬ。吾人が玆に進んて國民一般に文藝の趣味と知識とを普及せんと企てた理由は、主として此の點に存するのてある。即ち世界文藝のあらゆる方面の事實と、文藝のあらゆる方面に於ける原理とを、最も

平易に、最も明瞭に、最も確實に、而して最も面白く傳へようと企てて大成したわが文藝百科全書は、小にしては文藝を愛し、且研究せんとする人の資料となり、大にしては宗教家、教育家、爲政家は勿論國民全體の文藝的趣味乃至知識を啓發し、世界的文明國民としての品性の精錬に資し、以て國民將來の發展に光彩あらしむべきを信ずるものである。敢えて向上的欲求ある諸賢の座右に本書を勸む。

主なる本書の執筆者（順序不同）

伊東　忠太先生　　紀　淑雄先生　　星野　天知先生
石井　柏亭先生　　五十嵐　力先生　　新海竹太郎先生
島村　抱月先生　　久保　天隨先生　　小山内　薫先生

相馬　御風先生　　武田豐四郎先生　　松居　松葉先生
中村　星湖先生　　生田　長江先生　　伊原青々園先生
片上　天絃先生　　草野　柴二先生　　土肥　春曙先生
永井　一孝先生　　吉田　白甲先生　　東儀　鐵笛先生
武島　羽衣先生　　戸川　秋骨先生　　小松　玉巖先生
有馬　祐政先生　　服部　嘉香先生　　水谷　不倒先生
佐々　醒雪先生　　櫻井　天壇先生　　石倉小三郎先生
乙骨　三郎先生　　昇　曙夢先生　　秋田　雨雀先生
古城　貞吉先生　　保科　孝一先生　　田邊　尙雄先生

署名以外は早稲田文學社同人諸氏の責任ある執筆にかゝる

目次要項

文學

文藝概論＝文學の研究—文藝の起原—藝術本能—文藝の目的　詩歌論。小說論。批評論。世界文學＝發達略史。日本文學＝太古—奈良朝時代—平安朝時代—鎌倉時代—室町時代—江戸時代＝國學者の歌文—漢學者の詩文—小說戲曲—俳諧及狂歌—歌謠。明治時代＝序論—思潮概觀—新文明の曙光—戲作者の文學—政治文學—脚本作者—社會批評家。支那文學＝上代中世—序論—春秋以前—春秋時代—漢代—六朝文學—唐代文學—宋代—金元文學—明朝—清朝。印度文學＝緒論—梨俱吠陀—自餘の三吠陀—婆羅摩那文學—修多羅及び吠陀研究の諸學—二大史詩。ヘブライ文學。アラビヤ文學。ペルシア文學。ギリシア文學＝太古の敘事詩—新詩歌の勃興—戲曲—散文

—衰頽期の文學。ローマ文學＝序說—共和時代—帝政時代。イタリア文學＝中世期—文藝復興期—十七八世紀の文學—十九世紀の文學。フランス文學＝十四世紀以前—十五世紀—十六世紀—十七世紀—十八世紀—十九世紀及現代—新機運—過渡期—外國文學の影響—一八三〇年時代—後半期の詩壇—近代劇—近代小說—評論壇。ベルギイ文學。イスパニア文學＝セルバンテス以前の文學—十六七世紀の全盛文學。ポルトガル文學。イギリス文學＝序說—國民と文學—アングロサクソン時代—ノルマン時代—チューサー時代—文藝復興期—エルサベス王朝時代—スチューアルト王朝時代—王政復古—ポープ時代—十八世紀前半期—十八世紀後半期—現代—ジョージ王朝時代—ヴィクトリア女皇時代—エドワード王朝時代—最近及現代の小說—新聞雜誌其他の論文—戲曲。アメリカ文學＝獨立以前の文學—十九世紀の文學—最近の文學。ドイツ文學＝文學の起原—宗教詩—十字軍時代—詩歌の全盛—平民的教訓の全盛—宗教改革—三十年戰爭前後—過渡時代—典型派時代—ロマンチック—少年ドイツ派—現代自

然主義。**オランダ文學**。**ロシア文學**＝古代期—ベートル時代—エリサウェタ時代—エカテリナ時代—過渡時代—國民文學完成時代—ベリンスキー時代—暗黑時代—光明時代—虛無主義時代—愛他主義時代—新理想追求時代。**ポーランド文學**。**ハンガリヤ文學**＝緒論—準備期の文學—隆盛期。**日本現代文學**＝第一寫實主義—主觀派の小說—硬軟二派—海外文學の輸入—第二寫實主義—現實的傾向—個人主義的傾向—自然主義の大勢—史劇の變遷—過渡時代—新詩形の發達—擬古派の全盛と其反動—戀愛詩—叙事詩の發達—主觀詩の發達—近代的抒情詩—短歌界—俳句界—批評界。**聲音學**。**言語學**。**修辭學**。**神話傳說梗概**＝東方神話—ギリシア神話—北歐神話

演劇

劇評論。**劇場及舞臺**＝西洋古代の劇場—日本最古の劇場—現在の劇場。**俳優教育**。**日本演劇史**＝創始期—元祿期—實曆期—近世期。**能樂**。**狂言**。**西洋演劇史**＝古代ギリ

シアーローマー

音樂

音樂理論＝樂譜篇—旋律篇—和聲篇。**器樂論**＝器樂發達の概要—樂器の種類—樂器の形式と其種類。**聲樂論**＝聲樂發達史—聲樂の種類。**音樂的音響學**＝音響—歐洲學の理論—日本音樂の理論。**日本音學史**＝上古の音樂—平安朝の雅樂—中世の歌舞—近世樂壇の趨勢—現代の樂壇。**淨瑠璃史**＝淨瑠璃の起原—三味線の由來—操人形の由來—江戸淨瑠璃—京都の狀況—大阪の全盛期—京都第二の隆盛期—義太夫節の勃興—最近の義太夫界。**西洋音樂史**＝舊教聲樂の隆盛—歌劇の起原及傳播—バンハとヘンデル歌劇の革進—クラシック器樂—ローマンティック器樂

美術

日本繪畫史＝上代―中世。支那繪畫史＝上代―中世―近世。西洋繪畫史＝古代―中世―近世。繪畫雜纂。版畫＝總論―銅版―石版―木版―一枚版。書學。日本彫刻史＝古代―中世―近世。印度彫刻史及繪畫。西洋彫刻概說。西洋彫刻史＝古代東洋諸國―ギリシア彫刻―フィディアス以後―ローマ―東西のキリスト教彫刻―ロマチスク及ゴシック彫刻―文藝復興期―十七八世紀―十九世紀。東洋建築史。西洋建築史。＝古代―中世―近世。裝飾美術＝圖案―圖案と自然―裝飾と利用―形と色―裝飾美術の種類―日本の裝飾美術。美學入門＝美學の來歷―美學の獨立―美學の研究方法―美論の種々―美の定義―美の範圍―美の種類―美の實現。日本近世繪畫史＝近世前期―近世後期

解題

名著解題＝日本古代小說―近世小說―現代小說―東洋諸國―古代西洋文學―近世西

洋文學。名劇解題＝日本―支那―西洋―古典劇―ロマンチック劇―擬古劇―近代ロマンチック劇―近代劇。名曲解題＝日本諸流曲解說―西洋器樂聲樂名曲解說―歌劇。名畫解題＝日本―西洋。名彫刻解說＝日本―西洋。名建築解題。舞臺面解題補遺。文藝名家人名辭典

挿畫一覽目

◎法隆寺金堂玉蟲厨子臺座繪畫◎同壁畫四佛淨土圖◎藥師寺吉祥天女畫像（木版極彩色）◎鳥羽僧正筆「鳥獸戲畫」◎阿彌陀如來二十五菩薩來迎圖◎平治物語畫卷◎高階隆兼筆「春日驗記畫卷」◎周文筆「山水圖」◎雪舟筆「山水畫卷」◎元信筆「溪山問奇圖」◎永德筆「唐獅子圖」（木版彩色刷）◎探幽筆「清見潟圖」（アートタイプ版）◎光琳筆「躑躅圖」（同）◎春章筆「竹林七妍圖」（同）◎燕村筆「野馬圖」（アートタイプ版）◎應擧筆「雪松鳥圖」（同）◎文晁筆「山水對幅」（同）◎臭春筆「山水三幅對」（同）◎哥麿筆

「美人漫歩圖」(同)◎梁階筆「布袋圖」(アートタイプ版)◎牧溪筆「猿鶴圖」(同)◎アマンジアン「キッド皮の手套」(乾彩畫—原色着彩版)◎アルマタデマ「薇薔、愛の歓び」◎アングル「泉」◎イースト「沼添ひの道」(一枚版—原色着彩版)◎カラヴァジオ「骨牌あそび」◎グルーズ「乳賣女」◎ゲーンスボロー「シッドンス夫人」◎同「テヴォンシャヤ公爵夫人」◎ゴーヤ「着衣のマヤ」◎コレッジオ「キユピットの教育」◎コロー「ニムフの舞踏」◎コンスタブル「穀物畑」◎サージェント「カーチーシヨン・リヽー・ローズ」◎サルトオ「マドンナ・デレ・アルピー」◎ジョルジオチ「合奏」◎シャヴンヌ「ソルボンヌの飾畫」◎同「哀れな漁夫」◎スタンラン「工場歸りの勞働者」(自畫石版—アートタイプ版)◎スルバラン「聖フランシス」◎セガンチニ「信仰に和げられた悲哀」◎ターナー「ヴニス・ジウデッカ」(油畫—原色着彩版)◎ダギー「マダーム・レカミエ」◎チヽアノ「バッカスとアリアドネ」第一部◎同「花神フロラ」◎同「贖金」◎同「畫家の娘」◎同「自畫像」◎同「天の愛と地の愛」◎同「手套を持つた男」◎チントレッ

トオ「聖マークの奇蹟」◎デューレル「四使徒」◎同「自畫像」◎同「マリアの死」(木版畫)◎テルボルク「合奏」◎ドタイユ「夢」◎ドラクルワー「ドン・ファンの舟」◎バーンジョーンス「コフェタス王と乞食少女」◎ハルス「ハーレムの魔女・ヒルレ・ホッベ」◎ハント(ホルマン)「世界の燈」◎ブーザン「アルカディアの牧者」◎ブラウン「イギリスの見納め」◎ペックリン「波の戯れ」(油畫—原色着彩版)◎ベリニ「市長レオナルドオ・ロレダノオ」◎ホーフ「オランダ人の住家内部」◎ホイッスラー「ノクターンス」(油畫—木版彩色刷)◎同「カーライル」◎ポインター「アタランタの競走」◎ホガース「自畫像」◎同「當世風の結婚」◎ボッチチエリ「春」◎同「ダンテとベアトリチエ」(銅版畫)◎ホルバイン「ゲォルグ・ギスツエの像」◎ボンヌール「馬市」◎マーリス(ジェームス)「耕作」(油畫—原色着彩版)◎マカルト「女鷹匠」◎マシイス「收税吏」◎マンテニヤ「處女とキリスト及び聖徒」◎ミケランジェロ「シスチン寺天井畫」全景第三部◎同「アダムの創造」◎ミレー(ジョン)「安息の谷」◎ミレー(フランソア)「夕の祈」◎

同「穂拾ひ」◎ムーア「夢みる人々」◎ムリリョ「清淨受胎」◎同「賽遊び」◎ムンカクシイ「ミルトン失樂園を口授す」◎メイソニエ「一八一四年」◎メンチェル「パリー博覽會の休憩處」◎モネー「地中海」（油畫—原色着彩版）◎ラフ〜エリ「水景」◎ラフ〜エル「マンドナ・デイ・サンシストオ」（油畫—原色着彩版）◎同「アゼンスの學舍」◎同「昇天」◎ランドシア「威嚴ト厚顏」◎リーベルマン「女生徒」（油畫—原色着彩版）◎リッピ（フィリッポ）「告知」◎リベラ「牧者の禮拜」◎ルーベンス「畫家夫妻像」◎同「聖母と聖徒」◎同「果實の花環」◎同十字架降下」◎ルグロー「森の習作」（自畫銅版—アートタイプ版）◎レイノルヅ「デヴォンシャヤ侯爵夫人母子」◎レオナルドオ・ダ・ヴンチ「最後晩餐」◎同「モナ・リザ・ジオッンダ」◎レニ「見よ、人の子ら」◎同「オーロラ」第一部◎レムバッハ「ビスマルク公」レムブラント「畫家夫妻像」◎同「夜番」◎「代理委員會」◎同「キリスト病者を癒す」（エッチング）◎（以下省略す）◎其他繪畫、彫刻、樂器、著作家、肖像、名書挿畫等、眞寫版、木版、

總紙數六百拾貳個挿入

本書に對する都下二大新聞の批評

東京朝日新聞は曰く　最近の出版界は種々の辭書及び百科全書の全盛時代なりき是皆一般讀者の要求に應じて出版せられたるものにして其の出版せらるゝや毫も怪しむに足らずと雖も如上種々の辭書及び百科全書の出版ありしが中に於て獨り文藝百科全書の出版を見ざりしは吾人の竊に怪しと思ひし所なりき然るに事實は之に反してかの早稻田文學社は明治三十九年九月を以て同全書編纂の計畫を發表し居りしなり然れども爾來星霜を經ること玆に三年今日に至つて其完成出版を見たるは忘れ易き吾人に取りては實に突如たるの感なくばあらず故に吾人は今これを世に紹介するに當りて先づ其成功を祝せざるを得ず本書の目的は其名の示すが如く一系の組織を辿りて古今東西に亙る一大文藝論及び文藝史の體系を完成せんとするに在

りて全體を(一)文藝概論、文學(二)演劇、音樂、美術、美學(三)解題(四)辭彙の四大門に分ち世界に於ける文藝盛衰變遷及び現狀を一目の下に窺知するを得せしめたり而して各部門は夫々專攻の士に依つて擔當執筆せられたれば項目の按排、內容の簡潔何れも其體を得て要領を盡し文藝入門の士に取りては好個の教科書たるは疑ひなかるべく特に其名著解題名曲解題文藝家人名辭典は現今の日本に於ては實に得難き參考書たることを斷言す其書中挿入せる所の繪畫の如きも本書と獨立して別に繪畫の變遷を語り極めて贅澤なるも嬉し之て一般の索引だに附いて居れば鬼に鐵棒也尤然たる二千有餘百の此大辭典が如何に我文藝界に貢獻するかは吾人の刮目して見んと欲する所也

萬朝報は曰く　最近サイクロペデアの出版されたるもの、各科に亙つて、其種類甚だ多かりしも、文藝に關するものは、本書を以て嚆矢とす、本書は早稻田文學社の三年八ヶ月の努力に由りて成れるもの、部門を分ちて四とし、第一部には文

學概論、文學史、聲音學、言語學、修辭學、神話傳說梗概を收め、文學史は東洋、印度、歐洲、米國の文學を略述し、添ふるに日本現代文學史を以てし、神話梗概は東方ギリシア、北歐の神話を摘錄し第二部には演劇、音樂、美術を收め東洋西洋に亙りて其理論と歷史とを略述し第三部は解題第四部は人名辭彙にして、文學史中に其名ありて、其梗概なきもの、其名ありて其傳なきものについて、之を解題批評し、略傳し、以て、前後照應自ら大綱眼目を併せて一目に收めしむる體裁となし、各部門、各頁を通じて、參考書目を附し、演劇美術の二部分には、精巧の美麗なる着色版を挿めるは勿論、各部分を通じて、其名家の肖像を附し文字の說明以外別種の印象を殘すに力めたり、されば本書は、東西古今の文藝に關する一般的知識を與ふると共に、各部門の特殊研究者にとつても、適當の發足點を敎ふる指南車たる可し、

（後略）

ヱ6R-86

發兌元

東京市京橋區南鍋町一丁目二番地

株式會社 隆文館

電話新橋 二五八六（營業部）
四四三二
四九六九（編輯部）

振替貯金口座 東京八五三番

330
4

040676-000-9

330-4

税制整理論

田中　穂積／著

M43. 2
BDE-0357